

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日：6月4日

○印

図

A B C D E **F**

2

点を提出しました

学生番号 8253

氏名

山口美月

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

キャンベルのスープ缶

何じょうな絵が何枚もあるが、それは何を表わしているのだろうか。工場でスープ缶が大量に製造されているのを表わしているのだろうか。そう考えると一枚のキャンバスに沢山のスープ缶を描くよりも、このように一枚一枚別々のキャンバスを使用した方が大量製造を表現することができるかと納得できる。キャンバスが規律正しく並んでいる様子や、はっきりと分けられたスープ缶の赤と白が見ていて気持ちがいい。スープ缶は日本ではあまり見られないが、アメリカでは親しまれているものなのだろうか。もし日本でこの絵画が描かるとしたら、キャンベルの缶の代わりに日清カップヌードルが描かれそう。大量製造を表現するために何枚も同じ絵があるのかもしれないと先程書いたが、ではなぜ32枚でそれを表現したのだろうか。「規律の正しさ」だけなら沢山のキャンバスを全体で見た時に正方形に見えるように展示するのもまだとは思いますが、この場合では違う。32枚のキャンバスを縦4枚、横8枚に展示することである程度の流れを表したかったのかもしれない。まるでベルトコンベアーで運ばれるように。そして一番好きなのはこの作品の「無機質感」である。この無機質感はこの展示方法だけでなく、作品の描き方にもある。この作品には陰影がない。そのポスターのような表現がより製造物らしさが醸し出ている。そして一見無表情なスープ缶だがよく見るとスープの味が違っているのが分かる。統一感や規律の正しさの中にある発見やこだわりみたいなものが感じられるのが面白い。

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日：6月4日

○印

☒ A B C D E F

3 点を提出しました

学生番号 氏名

8230 小川 奇みらい

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要約する。

タイトル 1962
X-セージ / ^{ほぼ}キャンベルのスープ缶 (アンティ-ウォール)

この絵画は「枠組の中の^{ほぼ}沢山の同じかんづめがたがらで絵描かれている所までが絵画
なのか、人物が映り込んで、ななめから撮られている所」までが作品なのか、が第一
印象として入ってくる。絵画として見ると人物はヤケにリアルに絵描が水まきで
様に見える。私は後者の作品と見た。真、自分の壁にかざられた32枚のまたく同じ
赤と白のかんづめ、かんづめの色を考えている人、この画像の感じとられるX-
セージは「沢山の同じかんづめの絵が縦4枚、横8枚で並んでいる」程度で
不思議な感情になる。「このかんづめは何い何が入っているのだろうか?」「何処いかに同じものを
沢山ならんだのであろう?」「何を思い、世に何の目的であらう?」とひたすら
疑問の感情を呼び起こす作品だと思った。考えだせる受け手側の
感情に疑問をきたせるための、その目的を感じた。かんづめの中の丸い直線の
模様だけ知覚されているか、何かを伝えたいのか、何のあろうか? 不思議、1枚の
様にも見えた。

VTR感想

改めて作品の事を知った上でこのかんづめが出来上がった年数に驚いた。
1962年と20世紀の作品であり、とても身近な作品であったという事。このかんづめ
作品の事は知らなかったがウォールの作品は普段目にする事さえもあった事実。
1枚だと思っていたほど別に不思議な作品というわけではなく、スー
プ缶であった事実。実際の売り物を自分の絵柄で平面に、キレイな単色
で描きだし、並んでいるだけなのに、言葉にするのは難しく
彼の描きたる世界にただただ「すこい」とか「すてき」と声もれ、まじ
まじと見てしまう作品だと思った。現代にもよくある、「素直で好き」
「好きになる」とは理由なんてない」という言葉がとても似合う。
X-セージを伝えたい作品だと想定したが、驚く現代的に表現している
作品という事でよみは結構外れていた。

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日： 月 日

○印
A B C D E **F**

5 点を提出しました

学生番号 氏名
8242 山島 奇 楓花

タイトル
作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。
キャンベルのスープ缶

同じ絵が、32枚連らなっている。単純なスープ缶の絵なのに、どこか爆発的な印象を受ける。赤と白のシンプルな色彩構成で、画面いっぱいに描かれたスープ缶が可愛らしくもあり、潔くもあり、楽しい雰囲気もある。

この写真からだと、リアルな描写には見えない。平面的で、デザイン的な絵であると思う。表面的でこたわりがなく、芸術作品という枠に無頓着な感じがして、それがまた芸術的側面を生み出しているような作品だと思う。

また、同じ絵が32枚も飾られてあるということは、片反画を用いたものだと考えられる。これは、1枚のスープ缶の絵であるよりも、より親近感が湧く。1枚であったら、このスープ缶の詳細や、寛口末を深く深く掘り下げて考えてしまうと思うが、片反画(全く同じ絵)で何枚も同じ絵を使うことで大量生産ができる、特別感がない、日常的な出来事といったような身近な存在に感じさせられると思うのだ。

この作品は、グラフィックデザイン、ポスター、そして現代アートといった科学的な社会によって現代の雰囲気をとりまいていると思う。しかし缶の色、デザイン、描き方は古っさいというかウインター感が強く、アメリカの格好良さも滲み出ているとも思う。

この相反する2つの要素が、長い歴史を刻み有名になった芸術作品でありながらも現代人にも愛される絵であることを物語っているのではないかと考えた。

間違い探しをしようよな、何かの掛けが隠されているよな、そんなワクワク感をももたらしてくれる。

○印
A B C D E (F)

2 点を提出しました

学生番号 氏名
8234 佐藤 亮汰

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

クローン

一行目 缶の絵がきれいに並べられている。どの絵にも特に特徴がなく、展示方法も縦横ともにきれいにそろっていても工業製品的な、無機的な作品に見える。思えば描かれているのも何かの缶で、工場で大量生産されるものです。缶を実際に並べてモチーフにしてそれを描かなかったのはなぜか。平面的に同じ絵を並べることで遠近法が使用を避け、パースもつきにくくなることにより、さらに等間隔で均等に並べられていることを意識させるためでしょうか。全体を見ればとても整頓された作品ですが、絵のuとつとつを見ると同じデザインのものには、書かれている文字がそれぞれ違っていたり、文字が曲面の側面にきれいにのびていなかったりします。そういったところから、同じように同じものは全くない人間を、実は缶が表しているのではないかとも思いました。そうすると、特に根拠はありませんが、この絵は社会風刺的な意味合いが強いのではないのか、という気がしてきます。だとすると、自分はそもそもこの作品がどうくられたものが知りませんし、この絵が描かれた背景も分からないので、直接作家さん本人の話を聞かなければ正解は分かりませんが、僕が思ったのは「現代の社会に生きる人間の不安」です。

人はみな誰しもが個性をもっていますが、大枠で捉えれば、みな社会の型にはまって生きる人間で、社会を動かす歯車のひとつでしかなく、秀でた才能の持ち主は主会を変えられる力はあるも、その人がいなければ何もできなくなるような人物はなかなか居ません。だからこそ人工知能が発達する現在、人々は自分が代替可能なものであると感じ、不要なものになってしまふことを恐れているんだということか、有機的な手法で無機的なものを表現しようとしていることから読んでとれると思いました。

逆に缶が未開封のスープ缶であることに着目すると、温かいスープがたくさんある。ホームレス向けの炊き出しだったり、といったものも想像できますが、僕は、金属の冷たい感じから背景を想像して、くほうが好きです。

○印
A B C D E **F**

6 点を提出しました

学生番号 8239 氏名
坂本 真基

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。
タイトル
「キャンベルのスーパ缶」

一行目 解説を見る前の感想

この作品は、中学の時に美術の授業で見ました。
アンディ・ウォーホルのトマト缶、た、た、気が合います。
確かに彼はピカソやダヴィッドや、トマト缶の
企業の宣伝のためにこの作品を制作したのでは、は、は、
しょうか。

確かにデザイン的に優れた作品ではあると思います。
しかし、た、た、4x5に8枚でこの作品を展示するとは、
は、は、は、味気ないのでしょうか。

工場生産ラインで大量生産されていることを表現
しているのでしょうか。

解説を見た後の感想

ウォーホルのPOPアートの原点は、アメリカコミックのキャラクターを油彩で描くことから始まったようです。確かに、彼の絵には、コミック的技法や描き方が盛り込まれている感じが合います。

そして、それがPOPアートの火を駆け回らせる。素晴らしいことだと思います。彼の美術制作の動機となっている理由は「アメリカは貧困層と富裕層が同じものを飲食している」ということを世界の人に知らせたいということ。商業アートに美術的必然性を盛り込む彼の姿には目をみかれます。

理由を知ってから作品を見ると、アメリカの貧困層・富裕層の食の文化・階級性の徹底の必要性が見えてくる感じが合います。スーパ缶だけでなく、人々に様々な事を呼びかける。その姿は今の現代美術家を志す者に必要なものだと考えられます。

ここまでに取りめること (裏面には書かない)

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日：6月4日

○印
A B C D E **F**

4 点を提出しました

学生番号 氏名
8254 松宮 廉太

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。
タイトル 自分で考えたタイトル「スープ缶」

驚いた。4×8 = 32 の画面が全て同じものを語っている。しかも、全てがトマトのスープ缶だ。こういう作品を見ると「ああ、今は、何をしてもアートなんだな」と思う。便器に名前を書いた作品も、ただの水玉模様も、数千万、数億円単位の値が付く時代だ。自分にはその価値が付く理由が分からない。この作品もその一つだ。

1つの単位の連続は、ポップさや統一感、一体感を生む。この絵には、ポップな雰囲気を感じる。モダンな印象を与え、清々しく言い切った画面である。さらに、トマトのスープ缶という普段から見るとモダンなので、親近感も与えてくれる。現代的に感じるのはそのせいだろう。

この作品をアートとして見ることが困難なため、今からアートとして見つめて論じる。トマトのスープ缶は感情移入をする必要のない極めて無機質な物体だ。それを繰り返すことにより、それに対する愛を表現したか、たのかもしれない。作者はこのスープ缶が好きなのだ。絵を見る者によっては無味な画面に軽く描かれたスープ缶に興味を示さない。もしかしたら、それは大きな損をしていて、作者の愛を見逃しているかもしれない。

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日: 6月4日

○印

図 A B C D E **F**

5 点を提出しました

学生番号 氏名

8216 佐々木 梨乃

タイトルの欄: 作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

キャンパルの缶スーパ

シルクスクリーンで描かれたキャンパルの缶スーパ、全く同じ絵がずらりと並べられていて、初めにその数に驚きました。シルクスクリーンなので、何枚でも作ることはいくらでもできるが、まちりと決山並べられていて、まるでスーパーに陳列されている缶スーパのコーナーのようだなと思いました。私は、絵を描くと、色を自分の世界を表現しようとするので、この作品を見た時に、私たちが一つ一つに違う要素をいれるのが好きでした。アッティエウオホルの作品は、メタリックに文で何かを表現しているイメージがあります。なので、このキャンパルの缶スーパも、メタリックに向けたものなのか、それとも本当にスーパーに陳列されたキャンパル缶スーパなのかと思います。私が、初めにこの写真を見て感じたように、この作品は見た人に驚きも与えようとしたように感じます。同じものがずらりと並べられていたり、とても人々い何かか目の前にあたら、驚きを感じない人間はいないのではないでしょうか。私の推測ですが、この作品は壁を大きく使って、同じイメージをずらりと並べたりすることから、人々に驚きとインパクトを与えようとしたのだなと思いました。思いつきやうで、思いつかない、思いついても実行しようという気にはならない作っつを大胆に展示するところかとても好きだなと思いました。

原#

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日：6月 4日

○印

図 A B C D E (F)

5 点を提出しました

学生番号 氏名

8236 中島 凜人

タイトル 作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

スー7°缶

一行目

この作品は多くの人が見たことのあるものだろう。アンディ・ウォーホルの代表作である。並んだトマトのスー7°缶で大量生産社会を風刺していると聞いている。それにしてもこの色使いは好きだ。赤と白を基盤とした色はシンプルかつ美しい。シルクスクリーンで同じ絵をいくつも作る点も、大量生産社会を風刺するのには、たりである。しかし、なぜウォーホルはトマトのスー7°缶を選んだのか。コーラの瓶と木の方がアメリカらしいのに。その当時のアメリカではトマトのスー7°缶の方が人気だ、たのかわからないし、ウォーホル自身トマトのスー7°缶を受用していたのかわからない。日本で同じような作品を作るとしたら何をモデルにするのだろうか。ポテトや、ジュースになるだろうか。大量生産を風刺して制作したのに、コンビニ等で大量のトマトのスー7°缶で缶が売られているのを見ると、皮肉さを感じる。

ここまでに取りめること (裏面には書かない)

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日: 6月4日

○印
A B C D E **F**

5 点を提出しました

学生番号 氏名
8243 高松 波那

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。
「スーフ缶」 『キャンベルスーフ』 ウォホル

★ 縦4 x 横8、計32個のスーフ缶の絵が飾られていてとてもユニークだと思いました。よくみるとスーフの種類は1つ1つ違っていて見ためは同じでも中身は違うんだなと考えると思います。この作品はメッセージとか状況とかをうたった情報を得られるものではないと思います。(強いて言うなら作者はスーフが相当好きなのかなくらいだと思います。) 多分、規則正しくきっちりと並べられた32個のスーフ缶の絵を視覚的に楽しむもので、その絵のある空間だとかを感じるものだと思います。わりと最近の絵だと思います。

★ キャンベルスーフというブランド(?)のスーフでアメリカではなじみ深い、毎朝食べるような身近なものをモチーフにしている現代アート。全32種類のスーフを規則的にきっちりと並べることによっていさゝか絵でありながらも圧倒されるものになっていると思いました。イラスト調でシンプルな感じだけど、かっこいい雰囲気があって現代アートと言われてすぐに納得できました。

○印
A B C D E F

3 点を提出しました

学生番号 氏名
8218 寺山 留菜

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委ねる。

SOUP'S

この作品を観たときの第一印象は「なんでみんなにも同じ缶詰めの絵が
並んでいるのだ？」という疑問でした。上は赤、下は白の二色というシンプ
ルな SOUP と書かれた缶詰。その缶詰たちが縦4列、横8列の計32
個の缶詰が並んでいる。単純な作品のようで単純ではないような気配をし
ている。よくよく見たら他のスープの缶詰とは違う部分があるのかもしれない、
つい何か違う部分があるのではないかと思わせる絵の数。まるで間違い探し
のような作品だと疑問から感じました。そもそもこの数のスープの缶詰はど
うして1つで満足できなかったのだ？ 多く缶詰を用意したのは、何か意味を示
しているのかという次の疑問が生まれてきました。約1ヵ月分のスープの缶詰の消費
量を表しているみたいなイメージにもつながってきま。はたまた図Fの右端の男性
が食べたスープの缶詰の量かもしれない。様々な想像が出てきま。また、この
缶詰たちそれぞれ SOUP の文字の上が「違う」が何を意味しているのだ？ 3つ目の
疑問が生まれてきました。もしも味の違いがあるとすれば、この32個の外見
は同じの缶詰であるけれど、個性がそれぞれあるということを示しているのか。
私的に考えてこの作品を見るとそんな風に見えました。この一見シンプル且つほぼ
同じ絵も多く配置する斬新さに、見る者をなんた？と思わせる、言わば興味の
引かせている構図、作品のように感じとれました。その斬新で大胆さに個
人的には面白くも感じ好きな方向性でもあります。1つの作品で終わらせが、
複数をひたくりで1つの作品をみな、そして全てほぼ絵は同じ。個定概
念にとらわれがに豊かな発想力を馬鹿使っているように思われま。ただスープの缶詰
が並んでいるだけなのに、並んでいるから色々な疑問が生じてきて、なぜなの
だろうと考えているうちに、自然と見ている方にこんなのではないかというイメージが
わいてきま。この作品を見て、イメージを膨らませることで見ている側にも想像力
というものが身につく、想像する楽しさというものが生まれてくると感じました。絵が複数
飾られているとインパクトもあり、面白い構図なので実際に見てみたい作品であ

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日 6月 4日

○印

A B C D E F **F**

5 点を提出しました

学生番号 氏名

8207 高木 梨帆

タイトルの欄に、作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

キラッパルの スーパースト

テレビや本などで見たことがあり、現代的で他の5つの作品と雰囲気や全く違い、印刷物(?)で凄く親近感が湧きました。

作品には正面を向いたスーパースト2個もあり、威圧感を感じざるを得ない印象でした。スーパーの商品棚のようにも見え、おっとこちらを突めたら表情が無機質なスーパーストに見られているのでは? という気持ちになりました。赤という色もあり、見る人に対し怒を表現しているようにも見えました。

また、同じ店が同じ額縁に、同じ方向から来る光によって作り出す同じような影が、無個性で、周りに合わせ、流りを気にして作り出す日本人の癖にも見えました。ちなみに、学校の1クラスの人数と同じくらいなのが怖い。もし、このクラスに青い店を入れたら、同じおに並ぶことはできず、赤は仲間と認めたいと思います。そのうち、赤い店に選ばれたら、青も孤獨感が抜け出すために、自分の外観を赤にならざるを得ない環境に見えました。また、おに一つ一つの額縁に入るとして、隣どろしの店と融れ合めたい感じが、人間関係の距離感を感じました。

実は隠れているだけで、外観は同じでも中のスーパーストは皆、全く違う味だったのが面白かったです。

○印

図 A B C D E F

5 点を提出しました

学生番号 氏名

8205 横谷 梨穂

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

フェアリスープの缶 (アンティ・ウォール)

私はまず「美術に関して全体的に知識不足ではあるのですが、特にポピュラーアートに関しては知識不足なので」といえず「初めに見て思ったのは「缶詰た<くんあなめ」ということでした。正直と=からという考えを突き進ませるべきかと思ったのですが、「一枚一枚少し大きめのサイズ」であらうことに気がついて、これを2枚もあれば相当迫力があるかなと思いました。またかなりの枚数を1枚1枚手描きで同じものを作り出すというのも大変な労力を必要とするものだと感じました。忍耐力もかなりのものだと思います。普通同じものを何枚も時間をかけてつくるというのはあきらめてやめてしまったりするものだと思うので、それを感心されたのかもしれません。それを耐えて大量につくるというのは、やはり量があることの意味があるのだろうと考えました。缶詰も消耗品なので、余裕になった後の、物を大量消費する現代社会を皮肉つていふ、というか、表現しているのかなと感じました。

ポピュラーアートは「ポピュラーなアート」ということを知り驚きました。でもこれは作品を見るに大衆文化を缶詰で描いている作品が多いのかなと感じました。また、今までの風景を描いていた文化と、今の現代の文化を描いているものは本質は変わらなぬと言うことで納得し、また、缶詰の違いで美術様式の捉え方が変わらぬというのは、文化に「差をつけていふ」ということなのかなと感じました。私は高校の時授業でリキテックタイムを扱って以来とても興味を持っていたので、そんな彼の色のな人に影響を与えているというのはやっぱり嬉しいですね。ウォールの「複製」は、彼の表現欲や活力があふれた結果でもあるのかなと思います。また作品は全て同じものかと思っていたけれど、種類全てを描いたと聞いてとても驚きました。パロディを、つまり大量生産でつくった缶詰というものは、缶詰のこともあり、一般に美術をいふのをきっかけに作ったのではないかなと思います。また、本人が変人ということでも好感をもちました。

①印
A B C D E ⑥

6 点を提出しました

学生番号 氏名
8215 田島 梨

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要約する。
ふたち

1行目

(1) ずらりと並ぶ矢張りデザイン画。私は料理が人かまるでしかいし、デザイナー=志望でもないが、これでもこのデザイン画は幾度となく目にしたことのある有名なものな気がする。うのだが、このデザイン画が何故、規則正しく三十二枚並んでいるのか、まるで分からない。しかも、画像が小さいので、確実なことは言えないが、三十二枚全て同じものに見える。ボツに付いた案も全て並べてみただけか、初期の頃からマイナーチェンジを重ねていてそれを歴代のものがかかる形で並べただけか、分かるのだが、全く同じデザインを、どうして三十二枚も並べる必要があるのだろうか。こうも同じものがただただ並んでいるのを見ていると、もう頭が混濁して何が描いてあるのか、一瞬分からなくなってきたりする。もしか、それを狙っているのだろうか？ 一体何の為に？ 手前にいる茶色い服の男性は、解説でも読んでいるのだろうか。だとして、この人がどけてさえくれれば謎が解けるのではないかと。今すぐ、一歩下がって頂きたい。それともこの写真は、この男性込みで完成なのか？ もう何も分からない。

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日：6月4日

○印
A B C D E **F**

2 点を提出しました

学生番号 氏名
8224 青木 芽生

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

キャンベルのスープ缶

実はこの絵は以前テレビで見たことがありました。なので今回見たときに最初に思ったのはこの絵だけは見たことあるという気持ちでした。でも前回見たのは1枚だけだったので、こんなに数がある絵であることに驚きました。1つ目の疑問は どうして同じ絵を32枚を描いたのかという点です。大きさなども全と一緒に確かに人の目を引くとは思いましたが、それだけが理由ではないと考えました。そもそもなぜスープ缶を題材にしたのでしょうか。無機質なものを32枚を全く同じように描くことで当時の社会に何か伝えようとしたのではないかと考えました。

もう1つの疑問は6つの作品の中でどうしてこの作品だけ飾られている部屋の壁や見ている人まで写真に写っていることです。展示されている環境や作品を間近で見れるということを知った上でも感想を書いて欲しいという出題者の意図を感じました。そして絵の周りを見て私が感じたのは、余計な色がないということです。壁や床の色を入れても、白、赤、茶の3色だけで、スープ缶の赤色が強張る部屋の中でも目につきやすいのではないかと感じました。また人がいることで作品の大きさが具体的にわかるという利点もあると思います。

この2つをふまえて見ても不思議な作品だと思いました。規律的に並べられた32枚のスープ缶。このスープ缶は実在するのかもわかりません。ずっと見ていると変化気持ちになっ、てしまいうそうです。人や動物、自然のように動きや表情がないこの絵は、私たちに何を伝えようとしているのでしょうか。もしかしたら作者がこのトマトスープが大好きだったのかもしれない。たまたま家に32個のスープ缶があったから描いたのかもしれない。この不思議で少し怖さを感じられる絵に作者がどのような思いを込めたのか。それを知ることによってまたこのスープ缶に対する印象も変わっていくのではないかと感じました。

この用紙は、必要な枚数を自分でコピーしてから記述してください

美術感想文

手書きする

提出日：6月4日

○印

図 A B C D E **F**

点を提出しました

学生番号 氏名

8209 吉野 萌美

タイトルの題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

トマトスーフ缶 (ウォール) 「キャンパルスーフの缶」

現代アートに近い作品かと思う。まず、缶自体が最近の物だし、色の塗り方もデザイン的で決まった範囲に単色を塗っているように見える。機械的に同じ物が並んでいるから、まるで印刷物を写真に入れた大量に飾っているみたいだ。でも何故「大量に」「スーフの缶」を描いているのだろうか。何でスーフの缶なのだろうか。考える程わからなくなる。これを描いた人はこの会社のスーフ缶がよほど好きなのだろうか。中身を描いていないから缶のデザインやファルムといった、見た目の方が好きなのだろうか。思えば何回も描いてしまうほどだ。作品名は思い出せないのですが、観光で見ると見る人によるほどの人気の絵で、現地の人に聞けば「その美術館にある」と答えてくる程の作品だ、ということはある。話は変わりますが、絵の題材となっているトマトスーフらしきものは今も売っているのだろうか。あるのなら是非食してみたい。この絵では別段スーフの美味しさを伝えたくて描いているという訳でも無さそうだし、会社の商品紹介用としては情報量が少なく違和感を覚える。一体作者の意図はどこにあるのだろうか。

角評

アメリカの都市や文化をモチーフとした美術 = POPアートである。大量生産のマスプロ作品とも言われる。ウォールは漫画絵画と呼ばれ、アメリカンコミックを絵画で描いたものを作ったカリキランシタインと重なってしまったため複製という部分に目をつけて。

ウォールは元々移民だったから学校に入りデザインの仕事をするために出版者を任されていた。すると編集者に気に入らぬ描いておいてと言われたことにより、1日50枚描いてくる程だった。故に、彼は人気デザイナーとしてマニッシュをいくつも任される程となる。しかしウォールはそのような生活にあてられ、独立も決意する。案の定貧しくなってしまう苦境があるが、ある一言により今回の作品、「キャンパルスーフ」が完成する。普段目にしていないものを描くことにより、誰の目にも止まるものを描こうとしたのだ。内容とはわからないが、講義中に出てきたホモという言葉は差別用語に分類されるので「ガイ」と言った方が良い、と思います。

ここまで収めること (裏面には書かない)

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日：6月4日

○印
A B C D E **F**

6 点を提出しました

学生番号 氏名
8214 長井 千佳

タイトルの欄
作品の題名がなかった人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。
「トマトスープ缶」

壁一面に貼りつけられた赤い模様には振り向かすにはいられない。白いラ
ベルと赤文字のマーク、丸い印のついたスープ缶の絵は私に多くのことを
物語らせる。例えば大量生産される商品、急速な近代化、マニファク
チャの進出、様々な物がいつでも手に入る時代を連想させる。同じ
物が、同じ領域で、同じ時間に、同じラベルを貼られ、ベルトコンベアーのつ
きボール箱へ向かう。その工程の前の工程でも、同じ缶詰めがアルミから作
られ、(またはブリキ)同じ具が入れているはずだ。驚くべきことにこの作
品はその「同じ」を表現している。一体誰が同じ絵柄を何枚も壁に
貼ろうなどと考えたのだろうか。逆に、同じ物が大量生産されている現代
に違和感が沸いてくる。個性のない工場、個性をはぎとられたスープ缶、
黙々と作業する何千人もの人々。もしも人間がこのスープ缶の絵と同じ立
場であるならそれは恐怖にすら感じられる。クローン人間が大量に生産され
る社会は恐ろしい。(昔のナチスはヤリかねなかったが)スープ缶でよかったと
さえ思ってしまう。スープ缶なら食料になるし、長持ちするだろう。味はともあれ、
大量の食料を目の前にして「なぜこれを」と思わずにはいられない作品
だ。この作品は楽に作れたであろうか。カラーコピーにかけて何枚も作る
のに時間も手間もかからないだろう。この作者は、きっと絵を売る目的で
描いていたに違いない。愛のないポスターがここまで魅力を持つとは思
えない。やはり作者は何らかの意図を持っているのではないだろうか。
アンディ・ウォーホルが繰り返して同一性を好んでいたことを知らなかった。
むしろ、複製に対する皮肉を表現していたと思っていた。工場が生み出す格
一性や等一性の果てを知る現代とは違い、ウォーホルの生きた時代、
工場の進出と同じ物の生産はとてつもないことで、彼にとってはアートその
ものだったのだと思った。確かに、同じ物が作れるなんて、すごいことだ。しか
し、手作業でだって、同じ物は作れるし、日本だって負けてはいないと思う。

ここまでに取りめること (裏面には書かない)

この用紙は、必要な枚数を自分で
コピーしてから記述してください

■ 美術感想文 ■

手書きする

提出日: 6月4日

○印
A B C D E F

点を提出しました

学生番号

氏名

8208

横谷ゆき乃

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

キャンベル スープ (F) キャンベルの缶詰

高校の授業で出てきて、何となく覚えてはいます。ですが、この作品のどこに教科書に載ったり、授業で紹介されるような価値があるのかが今でも疑問です。「スープの缶を描いた」という行動に何かしらの意味があったと教えられたような気がします。あまりはっきりと覚えていません。資料の画像では絵の細かい所までは見えませんが、デザイン的で、固い印象受けるくらいの正確さと精密さで描かれているように思います。よく見ると缶の文字が1つ1つ違っていて、恐らく缶の中身が書いてあるのだと思いますが、缶のデザインが一緒で中身だけが違うというのは違和感があります。また、赤地に白い文字というデザインがココロウのようだと思いました。

解説VTRで見て、美術は時代の影響を受けて大きく変化することが分かりました。印象派などの時代は「自然」が環境で、1960年代頃からは「都市」が環境で、という違いが作品に表れています。ウォーホルはイラストやデザイン的な、人の注文の通りに絵を描いていた所から、自分の好きなように描くアーティストに憧れを持つようになりましたが、最終的には「機械になりたい」と思うようになりました。何かが矛盾しているような感じがします。そもそもキャンベルの缶詰を描き始めたのも人に言われたことがきっかけです。イラストレーターの「注文に応える」ということから抜け出せていないようにも見えます。しかし、よく考えみると、「機械になりたい」というのは、誰かの注文に機械的に応えたいという意味ではなく、機械のように同一性のあつものを描きたいという意味だったのだと思います。